

**学校法人南九州学園
南九州短期大学
機関別評価結果**

平成 20 年 3 月 19 日

財団法人短期大学基準協会

南九州短期大学の概要

設置者	学校法人 南九州学園
理事長名	澁谷 義夫
学長名	田野 光彦
A L O	土田 博
開設年月日	昭和40年4月1日
所在地	宮崎県宮崎市霧島5丁目1番地2

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
国際教養学科		110
	合計	110

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
専攻科	国際教養専攻	15
	合計	15

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

南九州短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 20 年 3 月 19 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 18 年 7 月 18 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神と教育理念は明確であり、それらを一体的に示しているといえる。内容は様々な学内資料に示されており、それに基づき、コースごとの教育目的・教育目標も明確に示され、教職員、学生、保護者などに周知徹底されている。

教育課程は体系的に編成され、免許・資格への配慮、授業形態や科目数のバランスなど、学生のニーズにも応え、シラバスを通じて授業内容・方法、評価方法などが学生に明らかにされている。またこれらは毎年改善されている。

教育の実施体制は充実しており、教育環境も適切に整備されている。図書館の蔵書数をはじめ、その他の設備なども整備されており、学生の満足度向上に寄与している。

単位認定は適正に行われ、資格などの取得に関しても十分な配慮がなされている。アドバイザー制度による学生への対応が確立されており、休学者、留年者、退学者を極力なくす努力がなされている。学生の満足度を考慮して授業改善が試みられ、教育目標達成への努力が認められる。また就職率は良好で、地元に着した就職先が多い。卒業後も就職先や卒業生から情報を収集し、卒業後評価への取組み努力がなされている。

入学前の適切な情報提供および公正な入学者選抜が実施され、入学後の学習支援や生活支援についても、アドバイザー制度を中心として全学的に取り組まれている。特定の教科においては、学力不足の学生に対する習熟度別授業編成や少人数教育体制が実施されている。学生に対する経済面やカウンセリングに関する整備が適切で、個人情報保護に対する配慮も行われている。進路支援は組織的、積極的に行われ、高い就職率につながっている。留学生、社会人学生、帰国子女、障害者、長期履修生などの受け入れにも積極的に取り組む体制が充実しており、それらの学生に対する支援体制も確立している。

教員の研究活動は良好に展開されており、また採択は少ないが科学研究費補助金をはじめとする学外からの補助金獲得に積極的に取り組んでいる。個人研究費に関しては少額に感じられるが、それを補完する「南九州学園奨励研究費制度」を有しているの

で充分である。

宮崎市内唯一の私立短期大学として、地域に開かれた短期大学作りが実践されていることは、地方の活性化に貢献していると考えられる。さらに「高等教育コンソーシアム宮崎」での活動にも積極的に参加している。全学的にボランティア活動を行う努力がなされている。

国際交流については、アメリカおよびオーストラリアの大学との連携により、短期・長期の語学研修や文化交流が実施されている。特に語学力強化の取組みに積極的である。

学校法人、短期大学の管理運営体制に、それぞれ理事長、学長が先頭に立って積極的にリーダーシップを発揮している。寄附行為や諸規程に基づいて、種々の会議や審議会、各種委員会などが設けられ、適時、適切に開催されて管理運営が円滑に進められている。また、事務組織の整備、人事管理については、関係規程に基づいて各所管業務が適切に遂行されている。

財務については、過去3ヶ年にわたり収支均衡している。施設設備については、関係の諸規程に基づいて適切に整備されている。自己点検・評価に関する学則、関連規程、実施要領などが整備され、組織的、定期的に点検・評価が実施されている。相互評価に関しては現在行っていないが、数年以内に実施しようとする積極的な姿勢がうかがえる。

積極的に時代のニーズに合ったコースを設定し、そのあり方についても詳細に議論され、全学的に発展させようという理事長や学長の姿勢が感じられる。

2. 三つの意見

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 「特別演習」という科目を設けて、アドバイザー制度をより活用させる努力がなされ、入学時の単位取得の指導から就職の指導まで、きめ細かな学生指導が行われている。また、パソコンや英会話などの授業では、習熟度別にクラス分けをして、個々の学生のレベルに合ったきめ細かな指導ができるよう配慮されている。さらに授業においては一般的に少人数教育を行っている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 宮崎の地域性と、国際教養学科としての特徴から専門就職を特定しにくいのが、多くの学生が短期大学で学習した分野に関連する就職、進学を成し遂げており、また就職先・進学先から良い評価を得ている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- アドバイザリー・システムによる教員と就職課の連携がよくとれていて、主に地元企業への高い就職率が実現されている。また、保護者会の協力を得て、各種資格試験の受験料の一部補助や資格取得に際して奨励金の支給が行われている。

評価領域Ⅵ 研究

- 南九州学園奨励研究費を設けて研究が奨励されているのに応じて、各教員の研究成果も相当数発表されている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 長年にわたり短期・長期留学を積極的に行い学生の英語能力の向上に努めている。半年間の単位認定留学が行われており、その準備のための教育課程も整備され、高い英語コミュニケーション能力をもつ学生の養成に役立っている。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 各種通信教育の受講費用補助や資格取得のための受験費用補助を目的とする独自の「自己研鑽補助制度」を作り、職員に自己研鑽の機会を与える環境を整備している。

評価領域Ⅸ 改革・改善

- 自己点検・評価は、自己点検・評価委員会を中心に行われているが、非常勤教員を含めて全教職員が取組み、授業改善に活用している。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅱ 教育の内容

- シラバスの中には、一部の科目であるが、開講コマごとに授業計画が記述されていないものや、評価の割合が曖昧なものや、参考文献欄が設けられていないものがあるので、シラバス内容のさらなる充実のための努力が望まれる。授業評価アンケート調査時には、学生の匿名性を保護し適切な授業評価を得るためにも、評価票の回収方法と集計方法の改善が望まれる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 限られた予算の中で、効果的にまた効率よく図書を購入するためにも、購入図書選定についての運営組織の設置が望まれる。また、情報系の専任教員の負担がやや大きいことは、今後の課題である。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 大学編入・公務員コースを設けているが、目的にかなう就職の割合を高めるために、学習支援、進路支援をさらに充実していくことが望まれる。

評価領域Ⅸ 財務

- 防災全体のマニュアルを整備し、防災対策および学生・教職員の避難訓練の定期

的实施が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項
なし

3. 領域別評価結果

	評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

幾多の学科変遷の中で国際教養学科を設置するにあたり、学園における正規の手続き（短期大学改革委員会、短期大学教授会を経て、南九州学園常務会、評議員会、理事会）を踏み、建学の精神・教育の理念が見直され、「幅広い教養と高い品格を備えた」・「実学を重んじ、職業人としての専門知識を有する」・「地域社会に貢献しうる」人材の育成が示された。そこから導き出された教育目的・教育目標が、国際教養学科の3つの系と、5コースに示されている。このことを、短期大学ウェブサイトを通じて学内外に示すとともに、学年ごとのオリエンテーションやコースごとのガイダンス時、また、週1回開講の「特別演習」におけるアドバイザー教員からの説明により、学生に周知している。これらに関しては一定レベルに達していると思われる。

評価領域Ⅱ 教育の内容

実践性と総合性を兼ね備えた現代的教養の習得をめざすという学科の目的・目標に基づき、学科共通の必修科目に加えコースごとに専門教育科目と教養科目を組み合わせしており、学科に相応しい教育課程が編成・整備され、実施されている。科目履修に対して、学生便覧の配布やオリエンテーションにおいて説明を実施するとともに、学習や進路の指導面では、全学生を対象に指導教員を配置するアドバイザー制度を取り入れきめ細かな指導体制を確立している。授業は少人数で実施され、教育効果の向上が認められる。取得可能な免許・資格については、学生便覧に取得のための履修規程や履修細則、取得方法や履修科目が明記され、時間割上でも科目が履修できるための配慮がなされている。少人数クラスや演習科目を中心に知識を体得する教育を行っている。平成16年度から毎年、学期ごとに授業評価が実施され、授業評価を参考に授業改善への努力もなされている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員組織としては、短期大学の教育課程を展開する上でも、短期大学設置基準としても必要な教員数を充たしており、その教員の採用や昇任に対しては選考基準などが整備・運用されている。学生の指導としてアドバイザー・システムを設け、専任教員は学生のサポートを行っており、授業や研究活動、そして学生指導などに意欲的な取組みがなされている。校地や校舎面積は、短期大学設置基準の規定を十分に充たしており、カーブミラー・外灯・禁止看板などの設置や、身障者専用駐車場、身障者用トイレ、点字ブロックなどの整備がされ、校地・校舎の安全性への配慮や障害者への対応がされている。授業を行うのに相応しい教室や授業用の器機・備品の充足、図書館のサービス体制の充実を図るなどの教育環境も整備されている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

語学教育を中心に少人数教育と、情報系科目やビジネス系科目では学習経験の有無などを参考に進度別クラスを設け、学生の理解度を確認しながらの授業への工夫がなされている。免許・資格の取得にあたってはオリエンテーションやガイダンスを通じて資格取得方法などの説明が行われ、免許・資格の取得状況から、取得に対する実績もみられる。「実学を重んじ、職業人としての専門知識を有する人材の養成」を達成するための教育への努力がみられる。アドバイザー制度を具現化した授業科目である「特別演習」を開講し、学生の履修、生活、進路など学生の多様な指導に充分時間を取っている。学生の卒業後の状況に関心を持ち、就職先からの評価や同窓会と連携を図りながら、教育の実績や効果を確認している。以上のことから教育目標の達成と教育の効果を計るための努力がなされていることがうかがえる。

評価領域Ⅴ 学生支援

受験生に対して、学校ウェブサイトおよび入試広報課のフリーダイヤルなどを利用し、迅速・的確に対応している。また、合格通知を発送する際には、さまざまな、入学準備の情報を提供している。入学後は不安の除去、大学生としての自覚や人間関係を築き有意義な学生生活が行われることを目的としたオリエンテーションの実施と、専任教員によるアドバイザー制度を設け学生生活への支援に取り組んでいる。教員および学生課職員を構成員とする学生委員会を設置し、クラブ活動、学園行事、学友会などの活動に対して、学生の自主性を尊重しながら支援を行っている。学生の学習や生活環境の整備と、経済的支援のための各種奨学金制度も充実している。就職支援に関しては、広報部就職課とアドバイザー制度を活用し学生が就職活動を効率的に行えるシステムを構築しており、高い就職率を維持し続けている。大学編入学や留学に関しての支援も行われており、資格取得にかかる補助金を交付しているなど学習に対する支援も活発である。

評価領域Ⅵ 研究

南九州学園奨励研究費などを活用して研究が行われ、論文や学会発表数からみて着実に研究成果を出していることがうかがわれる。科学研究費補助金、その他外部からの研究費調達についても、採択件数は多くないものの、熱心な申請努力が認められる。学科としての共同研究は行われていないようであるが、今後はグループ研究を進めるという積極的な姿勢もうかがえる。年 1 回発行される研究紀要において教員の研究成果を発表する機会も確保されている。専任教員は、個人研究室を有しており、機器、備品、図書などは整備され、研究に専念できる環境は確保されている。教員の研究活動を活性化させるための研究費の確保、適切な研究施設・備品の整備、研究時間の確保などの条件整備はおおむね行われている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

平成 13 年度からの社会人入学制度や科目等履修制度、長期履修制度のもと、平成 18 年度までに相当数の社会人の入学を受け入れている。学生の米国への短期研修は 27 年という長期にわたって継続されており、平成 11 年度に単位認定留学もスタートさせ 17 単位を認めるなど意欲的に取り組んでいる。現在「高等教育コンソーシアム宮崎」に加盟し、大学間の単位互換を目的として正規授業を提供している。学生の学外活動は、学生自身が将来の成功の基盤を築く上で非常に重要な活動であることから、教職員は可能な限り学生の地域活動や地域貢献、ボランティア活動などを支援しようと努力している。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事長、学長のリーダーシップのもと適時、適切に理事会、教授会が開催され意思決定を行っている。理事会は寄附行為の規定に基づいて開催され、法人の意思決定機関として適切に運営されている。教授会は教学運営体制の中心となり、学則に基づいて開催されており、教学に係る最高の意思決定機関としての機能を有する。

事務組織は整備されている。短期大学の事務部門の規模は適当で、任用は就業規則によって適切に行われている。事務部門は事務諸規程などを整備し、それらの規程に基づいて業務を行っている。事務決裁は事務組織規程および文書取扱規程にしたがって行われている。スタッフ・ディベロップメント（SD）活動の一環として事務職全体で「職員全体研修会」を年 1 回、夏季休暇中に実施している。各種通信教育の受講費用補助や資格取得のための受験費用補助を目的とする独自の「自己研鑽補助制度」を作り、職員に自己研鑽の機会を与える環境が整備されている。

人事管理は適切に行われている。学校法人は教職員の就業に関する規程を整備し、そしてそれらを教職員に周知し、規程に基づいて適正に処理されている。

評価領域IX 財務

短期大学としての中・長期の財務計画は策定されていないが、年度予算は適正に立案・執行され、適切な会計処理に基づいて管理されている。決算終了後の計算書類、財産目録などは法人の経営状況および財政状態を適正に表示している。監事はその役割を十分に果たし、公認会計士による監査も定期的実施されている。なお、資金の保有に関しては学園の資産運用規程を制定し、安全かつ効率的な金融資産の運用を図っている。

学校法人および短期大学の経営状況は評価を受ける過去3ヶ年にわたり均衡し、学校法人の財政状態は健全に推移している。短期大学の教育研究経費は、適切に計上されている。財務体質は妥当であり、過去3ヶ年の収容定員充足率に相応しい財務体質を維持している。しかし、短期大学単独の収支均衡は必ずしも十分ではなく、さらなる改善の必要性を理事長・学長もよく認識し、努力を重ねている。

固定資産管理規程や図書管理規程などの管理規程が整備され、施設設備や物品（消耗品、貯蔵品）を適切に管理している。施設設備の維持管理の中で防犯対策やコンピュータセキュリティ対策は完全に履行されているが、火災時の防災対策および学生・教職員の避難訓練などの対策についての計画書は現段階、作成中であることから、早期に作成を終えるように願いたい。

評価領域X 改革・改善

「南九州短期大学自己点検・評価委員会規程」に基づき、自己点検・評価委員会が中心となり、学生に対する授業評価を各年度ほぼ毎学期（前期および後期）終了前に、また、教職員間における評価を年度終了後に実施し、その報告書も発刊されており、活動の実施体制は確立している。自己点検・評価を実施した当初から全教職員で取り組んでおり、平成18年度からは非常勤教員についても全員を対象とした。評価結果を踏まえて、授業の再構築、新しい資格取得制度の創設、海外研修制度の充実、短期大学設備の充実などが図られている。現在、相互評価、外部評価は行われていないが、実施に向けた検討が行われており、取り組みに対する努力がみられる。